

第19回

日本YMCA大会

ユースエンパワメントを加速する

～私たちの活動が社会を変える～

2016年10月8日（土）～10日（月・祝）、日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘（静岡県御殿場市）にて、「ユースエンパワメントを加速する～私たちの活動が社会を変える～」をテーマに、第19回日本YMCA大会が開催されました。全国のYMCAから300人以上が集った今大会は、参加者の半数が35歳以下のユース世代でした。

今回の大会は、ユース世代の委員・ボランティア・スタッフ（日本YMCA同盟ユース委員、アジア・太平洋YMCA同盟ユース・レプス、世界YMCA同盟チェンジ・エージェント）が主体となって運営されました。

メインセッションは、ユースエンパワメントについて、ユース・シニアの世代別の10人程度の小グループに分かれて話し合いました（詳しい報告は次ページをご参照ください）。

オープニングセレモニーとクローリングセレモニーは「ドラムサークル」の手法を取り入れ、参加者全員が同心円状に座ってドラムやマラカスなどの楽器を打ち鳴らし、会場全体で一体感を得ることができました。

聖日礼拝では、広島女学院大学チャプレン澤村雅史さんより、ヨハネによる福音書6章1-15節の「5つのパンと2匹の魚を持った少年」に関連して、何の役に立つかわからなくても、とにかくやってみようというチャレンジできることが若者（ユース）の強みである、というお話をいただきました。

さらに交流会の一部では、プロのアーティスト（ジャズヴォーカリストの飯田さつきさん、ピアニストの森下滋さん、ベーシストの中林薫平さん）をお招きし、スペシャルジャズライブが行われました。

なお、9日には、東山荘新本館献堂式と表彰・感謝式が行われました。



日本YMCA大会

メインセッション報告

Step 0 「ユースエンパワメントって何？」

10月8日(土) 16:00~18:00

ゲストスピーカーに Wake Up Japan 共同代表の鈴木洋一さんを迎えたキーノートセッションでは、ユースも社会の一員であることや、ユースが社会を変えること、またアメリカ・イギリス・オーストラリア等のユースと比較した日本のユース像についてお話がありました。多くのユースが(もちろんシニアも)、「社会を変えるためには、まず自らが動くことが大切である」とのお話に勇気づけられました。



Step 1 「ユースのためのYって？」

10月8日(土) 19:30~21:00

ユース・シニアの世代別に10人程度が1つのグループとなり、3日間にわたりディスカッションを行いました。まずは、自己紹介からスタートし、Step 0のキーノートセッションの感想についてシェアしました。「あるべき社会」は「多様性を認める社会」、「残念な社会」は「無関心な社会」という声が多く聞かれました。「今の社会で変えていきたいこと」には、「格差社会」を挙げる人が多くいました。

Step 2 「ユースの現実とバリア」

10月9日(日) 10:00~12:00

初めに、Step 1について、ユースとシニアが集まり、シェアリングを行いました。誰にでも発言する権利があることを認識し、すべての参加者の意見を聞き、尊重するために、1回の発言は90秒以内となるよう意識しました。シェアリングの後は、それぞれの意見を踏まえ、よい部分・取り入れたいことについて話し合いました。そしてYMCAにどのようにつなげていくか、考えました。



Step 3 「ユースが動き出す」

10月9日(日) 16:00~18:00

ユースは、ユースエンパワメントのための自分の一歩をどのように踏み出していか、シニアは、今の社会で変えていきたいことへのアプローチから、社会を変えるための一歩をどのように踏み出していかについて考えました。ユースから出された意見には、まずは自分の住んでいる地域や、同じ地域で生活をしている人について知るため、地域のイベントに行くというものがありました。シニアからは、ユースの話に耳を傾け、コミュニケーションをはかるとい意見が出されました。

まとめ・振り返り

10月10日(月・祝) 9:00~11:00

ユースエンパワメントを加速するためには、各YMCAに帰ってからの働きがますます大切です。YMCAごとに集まり、3日間のディスカッションを踏まえて「何が自分のYMCAで必要か」「何ができるか」について話し合いました。多く聞かれた意見は、ユースとシニアがさらに距離を縮め、ともにYMCA運動をよりよくするということでした。

この大会は、つながりのきっかけづくりとなりました。ユースとシニアが一丸となり、YMCAを通じた活動でさらに社会を変えていくことが確認されました。



ユースとシニア：日本のYMCAでは、18~35歳のすべての人を「ユース」と呼んでいます。今大会では、「ユース」よりも年齢が上の皆さんを、便宜的に「シニア」と呼び、ディスカッションはそれぞれのグループで行いました。